

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-61

部門名： カリキュラム・マネジメント 実践部門	エントリー名：守谷市立守谷中学校
活動名： 主題：学びをつなげる授業づくり 副題：視覚カリキュラムの活用を通して	
解決すべき課題：教科担任制である中学校において、各教科担当者の教科における高い専門性がある一方で、他教科の教育活動に目が向きにくい傾向が見られる。そのため、習得した知識や技能を他の場面で活用するといった学びの連続性を生徒に保障することが難しくなっている。	
目標・方針： 生徒自らが「つながり」を生かして学びを深めるために、教職員一人一人が教科等横断的な視点にもとづいた授業づくりを行うことを目指す。そのために、小中 9 年間の学びを俯瞰することができる「守谷中学校区視覚カリキュラム」を活用した校内研修を行う(図 1)。「①つながりの可視化→②つながりを生かした授業実践→③つながりの有効性の検証」を行うことで、教員が教科の枠を越えて、カリキュラム・マネジメントに参画していく組織文化を醸成することを目指す。	
活動内容：「①可視化→②授業実践→③有効性の検証」=カリキュラム・マネジメント ①学年会や教科部会、または異なる教科担当者同士で「視覚カリキュラム」を見ながら、系統性・関連性、学習内容や育みたい見方・考え方等の視点で、学びのつながりを見いだす。(写真 1・2) ②見いだしたつながりを授業づくりにいかすために、指導案においてフローチャート図(図 2)を作成したり、本時の展開部分に、どのような手立てで生徒がつながりを生かすことができるかを明記したりし、相互授業参観を行う(写真 3・4)。 ③本時で生かそうとしたつながりの有効性について、生徒の姿に基づいて検証する事後検討会を行う(写真 5・6)。学期末や年度末に、それまでに実践した教科同士の関連について振り返りを行い、次年度の教育活動につなげる(図 3)。	
活動の成果： 本時の学びが、これまでの学びやこれからの学びとどのようにつながっているのかを意識しながら授業づくりに取り組む教員が増えてきた。担当教科内の系統性に関しては言うまでもなく、他教科で身に付けた知識や技能を担当する教科で生かすことができるような場面を授業に取り入れる(例：社会科の歴史的分野と音楽科や美術科の鑑賞、数学科の「相似」と測量技術、理科の実験結果の考察と数学科の「関数」)教員が増えてきた。そのことにより、職員室内で教科の枠を越えて、それぞれの教科で学習していることを情報交換する姿が多く見られるようになり、教員間のコミュニケーションが活性化した。 全国学力・学習状況調査の質問項目「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか(本校：41.6% 全国：26.9%)」等から、自らつながりを生かして学びを深めようとしている傾向が窺える。	
アピールポイント(アイディアや工夫)：※3～5 つ程度、箇条書きしてください ○「視覚カリキュラム」を作成するだけに留めず、カリキュラム・マネジメントの実現に向けてのツールとした。 ○教科等横断的な視点に基づいた授業づくりの推進により、教職員のコミュニケーションが活性化した。 ○授業研究と連動させることで、一部の教員だけでなく、一人一人の教員のカリキュラム・マネジメントへの参画意識が向上した。	

図 1：守谷中学校区研究構想図

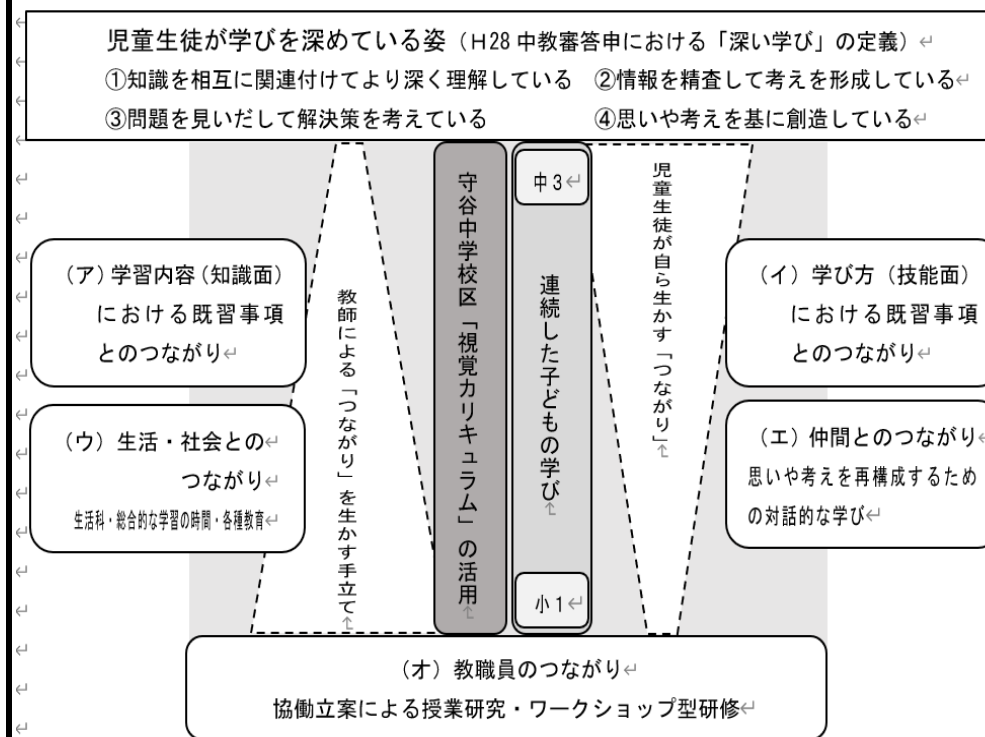


図 2：指導案に示した「つながり」を示すフローチャート図

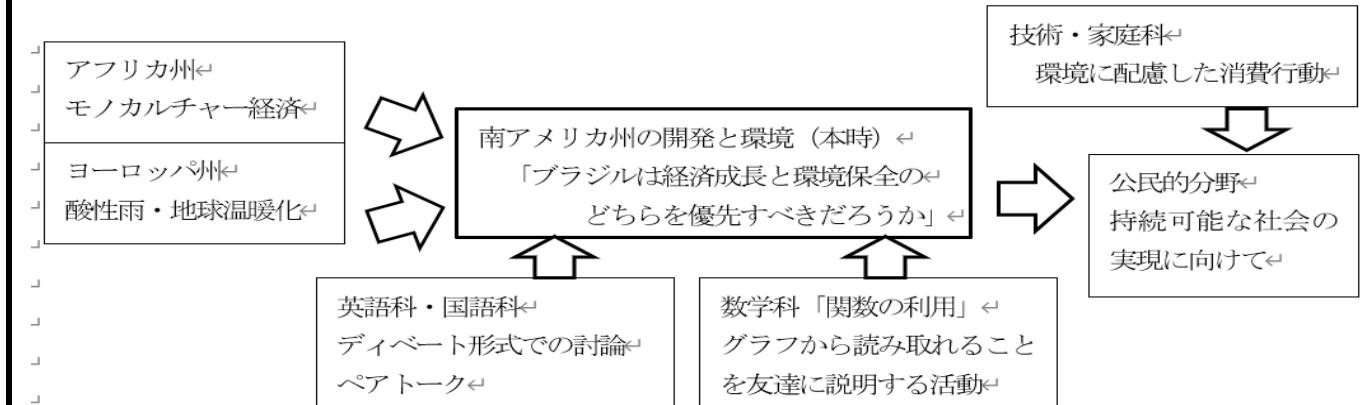


写真 3・4：教科の枠を越えた相互授業参観



写真 5・6：円たくんを用いた事後検討会

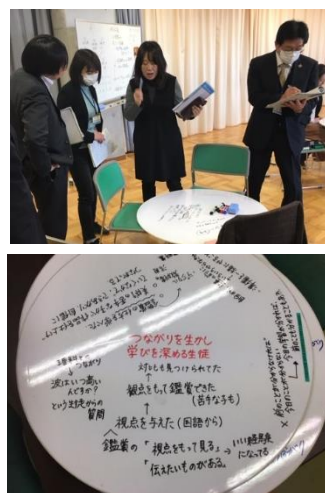


図 3：1 年間の実践を振り返り、教科同士のつながりを可視化した視覚カリキュラム

